

PROGRAM NOTE 2016年5月



オリーブの樹のかけにて 富山ハナ子さんの記録 吉田茂彦

1924年（大正13年）富山ハナ子さんは京都で6人兄弟の3番目として生まれた。父親は警察官。小学校は豊臣秀吉が花見の宴を開いた菩提寺の目の前だった。体があまり丈夫ではなく、先天性股関節脱臼であることも後で知らされる。ハナ子さんがキリスト教に心動かされたのは、ある朝、朝日新聞に掲載されていた次のような記事を読んだ時だった。

「アメリカから来日したジェイコブ・ディシェーザー宣教師が東京で集会をした時、ひとりの女性が参加した。この人は空襲で婚約者を亡くしたのでアメリカが憎くて仕方がない殺してやりたいとおもっていた。ところが、ディシェーザー先生の話を聴いているうちに、神様のゆるしの愛を知り、むしろ憎しみの固まりだった自分の姿を示され、その場で泣いて悔い改めた」これを読んだハナ子さんは驚いたが、その宣教師が京都に来るときいて、もっとびっくりした。

1950年（昭和25年）円山公園の野外音楽堂でその集会があり、大勢の人が集まった。ハナ子さんも出かけてディシェーザー宣教師本人の証しを直接きいて、さらにくわしい状況を知ることができた。<日本本土空襲に飛來した爆撃機の乗組員だったディシェーザーは中国のアメリカ軍基地に行こうとして燃料を切らし、日本軍基地に不時着して捕虜となった。鞭打たれ、栄養失調となり、仲間三人は銃殺、一人は餓死という現実に幻滅を感じた。その答えを求める上で差し入れてもらった聖書をむさぼり読んだ彼は、自分にもある憎しみという罪深さにおののき、原因は人の神からの離反であり、そのために、神の子イエス・キリストが十字架の犠牲で和解の道をひらかれたという神の愛に救いを見いだした。それからの彼は日本兵を見る目が変わり、過ちを犯すもののために祈ることができるようになった。>この証しを直接聴いて衝撃を受けたハナ子さんは、集会後、このゆるしと愛の道に自分も歩むことを決心し、その意思表示に集会後真っ先に手をあげた。

その後、八坂神社の石段下でバーワ宣教師と待ち合わせをして神楽丘伝道所に連れ行ってもらい、そこで礼拝に出席することになった。以降、浜寺聖書教会と昭和聖書教会を経て個人的にも信仰の学びを導いてもらうことになった。1994年（平成6年）堺大浜キリスト教会に通うようになると、すぐに教会の早天祈祷会に加わり、自宅を解放して毎週土曜日にオリーブ・コイノニア（家庭聖書集会）を始めた。メンバーは固定せず、教会でなくとも、興味のある多種多様な人たちを迎えていた。お茶の時間にはハナ子さん手づくりのケーキがみんなを楽しませた。ハナ子さんは22回入退院をくりかえされたが、その間も教会の信徒（オリーブ・コイノニアのメンバー）の唄野絢子さんが支え続けられて今日に至っている。91歳のお誕生日おめでとう！（写真下）



この私は、神の家にある生い茂るオリーブの木のようだ。私は、代々限りなく、神の恵みに拝り頼む。

（詩篇52篇）



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 每週土曜日放送		淀橋教会 峰野龍弘主管牧師 每週日曜日放送	
4月30日	グレース・オアシス・カフェ店主 星野孝子（1）	5月01日	南米ふれあいの旅（NHK 番組コンクール最優秀賞）
5月07日	グレース・オアシス・カフェ店主 星野孝子（2）	5月08日	ヨルダン・イスラエルの旅（1）再
5月14日	オリーブの樹のかけにて 富山ハナ子（1）	5月15日	リストナーからの「お便り交換の時間」
5月21日	オリーブの樹のかけにて 富山ハナ子（2）	5月22日	ヨルダン・イスラエルの旅（2）再
5月28日	真珠湾の淵田攻撃隊長映画化 マーチン・ベネット	5月29日	ヨルダン・イスラエルの旅（3）再

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 17760kHz (再放送) 午後8時～8時30分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)